

令和3年度 地方創生交付金事業評価結果

令和4年9月30日南丹市地域創生会議

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
1	1	1-1 間伐材出材奨励事業 (農山村振興課)	① 5名 ② 3名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●木材自給率向上が目的なので、この事業を活用した間伐材の南丹市内での活用有無より評価が異なる。 ●アウトカムには雇用創出に寄与しているとあったので、雇用創出が目的なら一定の成果があったように思う。 ●間伐材が搬出されていることはわかるが、原材料を原料としたしごとづくりに繋がっているかは不明。地域内での作り手への情報共有が必要。 ●間伐材の搬出面積は毎年一定の実施結果が出ているかと思う。今後さらに企業誘致にまで繋げていただければ。 ●一定の間伐材の搬出実績に繋がっているため有効と判断する。 ●間伐材を原料とした製造業への間接的な繋がりと総合的な林業振興に資する取組としても評価できる。 ●しごとづくりを基本にものづくりを始めとした、多様な方面に有効性がある。 ●間伐材出に対する交付金であり、安定的に事業を推進することによって、里山と産業が維持されることに期待。 ●輸送コストが高騰する中、間伐を促進するために、有効と判断する。 ●間伐材の搬出実績をみると、令和2年度から令和3年度については、一定の増加が見られるものの、平成30年度と比較すると、大幅に減少しており、その要因分析を行うとともに、当該事業の効果把握とともに、国・府施策との連携を一層図られたい。 ●森林面積が広い特色からも一層の間伐促進に期待する。 ●林業振興としては、有益な事業。その後の、間伐材を原料とする製造業の仕事づくりに、どのように繋がっていくのかが知りたい。
1	1	1-2 特用林産振興事業 (農山村振興課)	① 2名 ② 6名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●目的が地域特産物の定着とあるが、現状「朝倉山椒」と検索する兵庫県養父市観光協会のページが上位1位であり、検索1ページ目に南丹市の朝倉山椒に関するページは出てこない。生産振興と並行して商工観光課と連携するなどして「稼げる」商品になるよう、PRにも注力されるとさらに基本目標や事業目的達成に近づくように思う。 ●生産と同時に、商工課などと一緒に商品開発も進めるべきでは。今後に期待。 ●地道な広報活動が行われていると思う。さらに生産者を増やすために栽培のメリット、デメリットを広く広報する必要がある。 ●地域特産物として定着させる取組を通じ、栽培技術向上や生産量増産、企業誘致等の具体的な展開に向け、一定期間の継続した取組を期待する。 ●ものづくりをはじめとし、特産品の付加価値を活かした生産振興に期待する。 ●地域産物を掘り起こし、特産物として品質、生産量を向上させる一歩として、評価したい。 ●本格的な出荷が令和6年度以降とのことであり、まだ具体的な成果がみられないが、今後に期待する。地域における認知度を向上させ、新たな参入者を募り、産地化をめざすとともに、加工産業や飲食業におけるニーズの把握、販路開拓を進める体制を整えられたい。 ●農業公社への委託事業ということであるが、仕様書にはどのようになっているのかわからない。しかしながら、単年度で結果が出るものではないため、継続していくことが大切であり、また新しい特産物として定着することに期待値は大きい事業と思われる。
1	1	1-3 サテライトオフィス誘致事業者等支援事業 (商工課)	① 8名 ② 1名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●当初のKPIを十分に超える相談件数があり、8社が入居しているのは素晴らしいと思う。 ●企業単位でのサテライトオフィスだけでなく、個人単位での里帰りでも使えるような、コワーキングスペースとしての周知はできないだろうか。 ●目標数に近い結果が出ている。今後、若い世代には需要があると思う。 ●利用事業者8社の実施結果は評価できる。 ●サテライトオフィス需要を背景に各地で同様の取組が行われているため、事業者が定着し中長期的な地域活性化に繋がる取組を期待する。 ●働く人を増やすことによって、地域経済の活性化を促進する。 ●8社が新たに開設しており、有効と判断する。その後、各社が、どのように事業展開をされ、地域にとって、どのような効果があったか、把握・分析・検証を行われたい。 ●テレワークやリモートワークの普及、多様化する働き方、高齢化の進行などにより家庭の都合で勤務の継続が難しい人の離職を防ぐなど地域雇用の促進に繋がる伸びしろがあると思う。 ●8社の企業がサテライトオフィスを開設という、素晴らしい成果が出ていると思う。どのような企業が開設されているのか教えてほしい。 ●全国あちこちサテライトオフィスを誘致している中でこの地域ならではのよさみいたいのがあれば。 ●都市部に近い割に自然が多い、企業にとっても通いやすい、リフレッシュになる等PRできる場所がもっとあるのでは。テレワーク、ワーケーションで注目してもらえたら。 ●舞鶴市や宮津市のように、南丹でもサテライトオフィスで来ておられている方と地域の交流が増えたらと思う。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
1	1	1-4 商工振興助成事業（創業支援） (商工課)	① 1名 ② 8名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●定住促進が目的の一部であるならば市内全戸配布に加え、他の広報活動も必要と感じる。 ●その後起業して続いているかがわからない ●南丹ならではの仕事づくりにつながるよう、一般的な創業支援の内容だけでなく、地域の事業者を紹介するなど、次につながる取組を期待。 ●起業する方に対してのセミナー開催は、起業に対する不安を解消するために有効だと思う。 ●創業支援は地域経済の活性化に繋がる重要な項目であり、15名の受講者による取組成果は評価できる。 ●継続した創業支援セミナー実施と新たな支援施策の検討もお願いしたい。 ●南丹市の特色を活かしたしごとを創出するきっかけになり大切である。 ●定員の15名が受講されており、有効と判断する。各受講社が、その後、どのように創業へ準備を進め、どのような状況であるか、把握・分析を進め、国・府施策との連携を図りながら、オール南丹市で支援する体制づくりを進められたい。 ●起業を考えている人にとってはとてもありがたいセミナーと思う。その中でどれくらいの起業者がいたのかが不明である。今後どのように、セミナー参加者となつていくのかが知りたいところ。 ●受講者がどういった方なのか気になる。都市部で民間のセミナーが一杯あるので、その受講者が、この地域で起業することに特化して学ぶセミナーの方が良いのでは。 ●講座は傍聴や見学ができるのか。大学生や高校生にも見せれば、地域特性を踏まえてシビアにどう事業化していくのか理解が進むのではと期待する。 ●南丹市が創業支援をして伴走しているのは銀行としてもありがたい。協力して取り組みたい。 ●南丹市の特色をいかして創出していくにはこの事業が有効であったと思う。
1	1	1-5 南丹市販路開拓支援事業 (商工課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●新規取引件数も一定数あり、商談件数も多く、基本目標や事業目的の達成に十分寄与している。 ●市外での展示だけでなく、市内の広報にも使えるようにしてはどうか。 ●「市外での展示会の出展に対し補助を行う」という部分が有効であったと思う。 ●コロナ禍で制約があるなかでの展示会開催であったため効果が十分であったかどうかの見定めは難しいと思うが、商談件数や新規取引件数は一定の評価ができる。 ●事業所が市外において、取引の新規開拓は必要である。販路開拓に繋がる。 ●コロナ禍にあっても、ピギナーの自走支援を行い、新規取引に繋がっており、有効と判断する。金融機関等とも連携し、戦略的な投資・雇用を進め、さらなる発展へ繋げるための体制づくりを進められたい。 ●市内の立地企業が発展することは、今後、街の発展に大きく左右することと思う。こういった支援を地道に継続して行う必要があると思う。 ●利用が多いのは確かだが、企業としてやるべきことを自前の費用でやるか市の費用でやるかの違い、という程度に収まっていないか。企業の新たな取組を誘起する事業ではない。 ●コロナ禍でもあり効果の見方が難しい。 ●新規と住み分けができていくのがよい。
1	2	1-6 南丹ブランド推進助成事業 (商工課)	① 3名 ② 3名 ③ 2名 ④ 1名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●私の勉強不足もあるが、南丹ブランドとは何かが不明である。WEB検索しても該当ページが出てこない。 ●限られた予算の中でできることは対面販売といったことに限られてしまうのは致し方ないが生産者の中で南丹ブランドとは何かを考える機会を作ることにも必要と感じる。 ●活用したのが1事業者のみ。販売場所や広報にもう工夫必要ではないか。 ●南丹ブランドを定着させるため、継続的な取り組みが必要であると思う。 ●事業目的は良く必要なことと思うが、1事業者のみの活用となったことから継続的な取組により効果を高めるためには一層の工夫が必要と考える。 ●南丹ブランドの特産品や加工品を対面販売することにより、効率よくアピールできる。 ●ブランド定着イベント活用事業者が限定的であり、市内事業者への周知とブランド化へのマインド醸成が期待される。 ●せっかく良い取り組みなのに、活用が1事業者であったのは、コロナのせいなのか、それとも、もともと1事業者に絞って取り組んだのかどちらであろうか。場所はパーキングでよかったか、日時が効果的であったのかはわからないが、今後も継続して進めていく必要がある。 ●単発のイベントより、何かのイベントへ参加（抱き合わせ）で行うのもよいと思う。 ●以前、行政評価では京野菜ブランドの方がよいのでは、と話題になっていたが、南丹ブランドとして進んでいるのはよいことだと思う。ただ、京丹波町の栗ほどのイメージ定着はない。 ●南丹パーキングエリアのイベントを目標としたが、観光客をターゲットにするなら違う場所でやることも検討を。南丹PAでやるなら宣伝が必要。 ●ブランド化は難しい課題だが、PR方法は工夫の余地があると思うので検討いただきたい。 ●単に南丹市産の農産物を南丹ブランドだと言ってもなかなか普及しない。 ●流通させるために一定のロットが必要だが、どの品種で狙っているのか見えにくい。 ●付加価値をどう高めていくのか。新規就農者が定着するには自分の販路を開発することが必要なので、一貫支援すると見えてくるようにも思う。 ●京野菜でなく南丹野菜というところまで目指すのか。どこまでを目指すかでかなりニュアンスが違う。 ●南丹市は生産量で勝負できないので、ブランド化は必要だが、「ブランド化」と言い切つて発想が止まっていないか。南丹の特色とは何か掘り下げがないまま、それを名目とする事業だけをやっても効果が薄い。 ●「南丹のいいもの」ぐらいいのレベルを目指すならもう少し戦略を固めて頑張つて欲しい。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
1	2	1-7 ものづくりのまち推進事業 (地域振興課)	① 5名 ② 2名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●工芸品に実際に触れる機会を創出し、地域産業の担い手育成に一定の効果があったと思う。 ●工芸家協会以外にも、目的にあう市内団体や学校などにも連携を図ったらどうか。 ●ものづくりは実際に体験しないとわからないので、体験の場が今後さらに増えていけば良いと思う。 ●数多くの展示会等を開催し、ものづくりの楽しさやものを大切に作る暮らしについて考える機会を提供できたことを評価する。 ●選択肢を求める多様な価値観に応えられる。就業支援や人材育成に大切な事業である。 ●市内工芸家で組織される南丹市工芸協会の取組を支援し、移住支援の観点からも、有効と判断する。今後、さらなる発信力の強化、ターゲットを明確にした展開に期待したい。 ●どのようにすれば、展示会に多くの方に足を運んでもらえるのか、興味を持ってもらえるのかを考える必要がある。展示会をすることで興味を持ってくれる人はいると思うので、継続はしたほうが良いと思うが、専門の学校などもあるので、うまく連携した取組になれば良いと思う。 ●ものづくりは体験、体験して初めてハードルが下がる。有効とは思いますが、体験の場がもっと必要。
1	2	1-8 小規模企業支援事業 (商工課)	① 7名 ② 1名 ③ 0名 ④ 1名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●中小企業の安定経営に欠かせない事業であると思う。 ●どのような人が使えるかの広報がもう少しわかりやすいと活用が進むと思う。 ●小規模企業の経営が安定することにより、雇用に繋がっていく有効な事業であると思う。 ●小規模事業者の経営安定化、事業拡大を間接的に支援する施策として有効である。 ●市内の小規模企業者の経営安定のため融資を受けた場合の助成であるが、もっと積極的な制度利用を呼びかけてほしい。 ●商工会と連携した伴走支援事業として、有効と判断する。可能な範囲で、本事業を活用された事例を紹介されたい。 ●良い事業と思う。今後も継続する必要がある。広報などはどのように行っておられるのか。
1	2	1-9 ものづくり産業雇用支援助成事業 (商工課)	① 3名 ② 6名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●市民雇用に対して産業を限定して助成金交付を行うのは一時的に雇用維持に繋がると考えるが、持続可能な地域雇用支援にはまた別の施策が必要であると思う。 ●人数をもっと増やすため今後期待したい。 ●助成金を活用しての就業希望者へのPR方法までアドバイスしたり、そこへも使える形（市内で使える商品券や地産のお米を配るなど）にしたら活用者が増えないか。 ●地元雇用率が上がっている。 ●市内雇用の促進、定住の促進に繋がっている。直接的な市民の雇用数増加に寄与する事業として評価できる。 ●定住の促進に必要である。 ●市内雇用の促進のため、有効と判断する。事業者のニーズを把握し、これに応えつつ、新規事業であり、周知を図り、活用を促進されたい。 ●市内就職者の促進は転出者の抑制につながり、定住が促進されることから地域雇用者の比率が高まることに期待する。市外就業率は約4割であり、以下に目標値に減らせるかが課題であり、事業者への助成金にかかわらず、地元就職した勤労者に対しても何らかの手立ての創出を考えてもいいものか？と思う。 ●助成により、地元雇用につながることは、とても効果的な事業と思う。助成事業により雇用された人が、次年度も継続的に雇用されているのかどうか。
1	2	1-10 商工振興助成事業（商店街活性化） (商工課)	① 4名 ② 4名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が主体的に企画実行されており、今後も継続的に地域産業の支援、地域雇用維持につながる位事業と考える。市民が市内店舗を活用するきっかけとなり、基本目標4にも間接的に寄与すると思う。 ●商店街組織が維持できなくなっているのがそもそもの問題ではないか。いくつもある商店街をまとめて効率化するなどの、話し合いを設けたり、組織変更につながる手続き費用に使える形にしてはどうか。 ●商店街の活性化は、今後の市の発展において必要不可欠。少しでもイベントを賑やかにする目的で助成を行うことは有効だと思う。 ●商店街活性化は多くの地域で大きな課題となっている。コロナ禍において制約もあるなか、対策を講じつつイベントを実施できたことは評価できる。 ●市内雇用と定住の促進を図れたことは、大切である。又、商店街の活性化に繋げてほしい。 ●コロナ禍であったが、商工会と連携して、持続性を意識した販路開拓・情報発信強化に資する取組であり、有効と判断する。商店、来訪者双方について、どのような感想・意見をお持ちかを把握・分析されたい。 ●中心市街地を中心に、若者が商工会を盛り上げる事業は大切であると認識する。イベントへの助成ということであるが、賑わいの創出や販路拡大にどのように影響したのかを明確にしたほうが良い。 ●今のやり方だけでは上手くいかなくなるのではないかと。イベントに出すお金が多い。買い物しやすい、事業者負担が減る効果はあると思うが、それだけで商店街は成り立たないので、商店街をこれからどうしていくかと今後繋がる話し合いや取組の検討をした方がよい。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	1	2-1 空き家流動化対策事業 (地域振興課)	① 6名 ② 3名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●①②の事業は有効であったと考える。コロナ禍の影響もあるのか、移住希望者、空き家購入希望者が増加傾向にあるため、基本目標2のKGIやKPIを達成するために欠かせない事業と考える。 ●③についてはどちらかといえば有効で無いと考える。印刷製本が必要な客観的なデータがあればいただきたい。データがWEB上にあれば十分であると感じる。 ●空き家の掘り起こしに予算をかけるべき。空き家になる前に連絡先を知っておくことが重要になると思うので、自治会などと連携して個別に声かけができるようにしては。区によっては、区費をあつめる時に、市外にいる人には郵送で案内を出しているところもあるようなので、そこへ市からの空き家提供協力依頼や、活用できそうな補助金についての案内も入れたら有効だと思う。 ●空き家バンク登録数を増加させるため、移住相談件数の増加を増やす取組が必要。 ●空き家物件の掘り起こしを始め補助金交付、定住ガイドブック発行等の具体的かつ有効な事業である。空き家バンクも認知されよく利用もされているように感じる。定住促進に繋がっている。 ●地域振興に大切である。地域ぐるみの取組が有効であり、地域と協働して事業に取り組むべきである。 ●地域住民、地域団体そのものに、空き家流動化対策事業なり定住促進サポートセンター運営事業の取組が、周知理解でいていないのではないかと。必要な事業であり地域の課題として、広く住民にも広報願いたい。 ●空き家の有効活用に向けて、地域づくりと連動させ、移住する方にとっても、地域にとっても、良かったと思えるよう総合的な施策を実施しており、有効と判断する。今度は、まちなかの空き家についても、活用していけることが期待される。 ●空き家の登録は難しいと聞いていたので、この事業により登録者が増え、さらにマッチング率も高く、評価に値する。 ●②の廃棄物処分費は、上限20万で大丈夫なのか。 ●③のガイドブックは、記載内容が変化していくこともあるので、なるべくSNSなどで発信し、その費用を②に充てても良いのではないかと。 ●空き家ができてからの対策では遅い。自治会が空き家対策について住民に訴えて我が事と捉えてもらうような啓発が必要。地域に責任感や危機感が弱い。事業として外向けの発信に寄り過ぎている。 ●言いにくいことだが一定の話はして、予防的に住民の皆さんに考えていただく。アイデアとしては住民の方に一層、我が事と捉えてお考えいただけるような取組もいるのではないかと。
2	1	2-2 定住促進サポートセンター運営事業 (地域振興課)	① 7名 ② 2名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●基本目標2のKPI達成に欠かせない事業であると思う。 ●空き家の掘り起こしに予算をかけるべき。空き家になる前に連絡先を知っておくことが重要になると思うので、自治会などと連携して個別に声かけができるようにしては。区によっては、区費をあつめる時に、市外にいる人には郵送で案内を出しているところもあるようなので、そこへ市からの空き家提供協力依頼や、活用できそうな補助金についての案内も入れたら有効だと思う。 ●定住には地域の受け入れ態勢が重要かと思う。 ●定住促進サポートセンターの設置効果は大きく、移住相談件数や空き家バンク活用件数にも寄与している。地域と連携した移住者受け入れ体制のさらなる強化に期待する。 ●“新しい人の流れをつくる”目標においても、大切な事業だと思う。積極的な情報発信を行うとともに、地域と連携した、移住者受け入れ体制を強化すべきである。 ●地域の移住相談人材と連携・役割分担し、移住者の積極的な受入と定住促進を図るため、有効と判断する。 ●移住したいと思う人の気持ちや、他地域に向かないよう、仕組みがうまくできていると思う。今後さらに強化していただきたい。 ●無くすことはできない事業だと思う。 ●移住希望者の相談を受けるのが主な業務だと思うが、掘り起こしにもっと予算や人材をかけられれば。
2	2	2-3 総合振興計画進行管理事業 (企画財政課)	① 7名 ② 0名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●予算が限られている中、回答率は低いものの一定のアンケート回答を得ることができ、基本目標2のKPI達成に寄与したと考える。 ●他の政策の意見も聞ける範囲で聞くことができたなら、より新しい人の流れという目標に添えるように思う。例えばシティープロモーションの出し方など。 ●アンケートのWEB回答システムの導入は、非常に有効であると思う。また、学生の視点により新たな発見があることが期待できる。 ●外部人材（大学生）の参画により新たな視点での事業実施を始め工夫を凝らした取組である。回答率向上に期待し、南丹市のPRと誘客への取組に繋げていただきたい。 ●アンケートによって、観光や移住定住に繋がるか？ ●外部人材（大学生）を参画させ、新しい視点で市の施策を評価・分析するとともに、若者の関係人口創設に向けて、有効と判断する。 ●大学生などにまちづくりに関わる機会をもっと増やすことが大切と考える。 ●アンケートの回答率が気にかかる。アンケートもよいが、大学生の柔軟なアイデアで、SNSを通じた南丹市のファンサイトなどを制作してもらってはどうか。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	2	2-4 シティブロモーション推進事業 (秘書広報課)	① 4名 ② 4名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●南丹市が定義する「南丹市の価値」や、持ってもらいたいイメージを伝えているページが見つからず、各課の事業を実施する中でも十分に共有されているのか不明だったため。(シティブロモーションを行う上で、茨木市でのイオンシネマ広告が最適だった理由を伺えればと思う。) ●空き家バンク登録者などの傾向を調べたりアンケートを取ったり、京都府の移住窓口などと連携するとより効果的な広報場所がわかるのでは。 ●イオンシネマ茨木以外での上映も検討。 ●PR対象が限定的にならざるを得ず、より有効な媒体活用に向けて試行を継続されたい。 ●南丹市のイメージや、認知度を向上させる為にも必要である。今風の広報（PR）を賛成。 ●映像情報を多様な媒体に載せる事は有効なPRに成ると思われる。 ●多くの大阪府在住者をターゲットに、低コストで情報発信を行っており、有効と判断する。遡及したいターゲットに、どのような情報を発信するか、その効果の把握・分析をどのように行うか、事業の効果検証に取り組まれない。 ●映画館での広告は大変有効と考えるが、なぜ茨木だったのか。南丹市での田舎暮らしを魅力的に感じる地域か、また田舎暮らしを魅力的に感じる世代を意識した映画上映であったか。 ●コスト削減の工夫として、地元のケーブルテレビの活用は効果的であるが、「地元業者なので安価で済む」という発想は良くない。2-5にもあるが、「安価で効果の高いもの」が理想だが、本来どのように効果を上げるかに、もっと注力すべきだと思う。 ●色々取り組んでいるが、効果のエビデンスがない。 ●中途半端な田舎で流しても効果が薄いのでは。映画館で流すというのは凄く効果があつていいとは思いますが、心に響く地域はどこか。使い方の戦略が欲しかった。取組自体はよかったと思う。 ●最新の映画を見ようとする人にこれを先に見せるのが印象として有効なのか、どこで見せるのが重要と思う。 ●事業としては必要とは思いますが、対象が限定的過ぎる。 ●南丹市を知ってもらうことが大事なので、①とした。 ●個人的見解だが、大阪は地元愛が強いので学生に見せた方がよかったかも知れない。
2	2	2-5 山陰本線南丹市広告宣伝事業 (地域振興課)	① 4名 ② 4名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●このような大々的なPRは行政だからこそできる事業である。是非今後も続けていただきたい。今後、南丹市に興味を持ってくださった方がSNSやWEBで検索をかけた際に伝えたいことをしっかりと伝えられる情報整備がなされることを期待する。 ●電車通勤で移住を考えている人には南丹市は魅力的だと思うので、効果があると思う。 ●東京や大阪といった都会でPRすることは効果が期待できると思う。 ●広域にPRできる取組として評価できる。コスト削減にも工夫されているが、山陰本線の利用促進という観点から、低コストを意識しつつより一層効果的な取組みに対し工夫が必要と考える。 ●首都圏や、大阪等、府外での広告掲出により、南丹市をPRできる事業である。 ●南丹市を訪れ、移住へのターゲットとなる京都・大阪在住のJR利用者への情報発信として、有効と判断する。必要に応じ、森の京都DMOとも連携し、より効果的な発信を行っていくことが期待される。 ●これらの広告により、何か変化があったのか（問い合わせなどはあったのか）、わからない。 ●PRというのは本当に難しい。どこに出すか。中途半端な都会ではなく、都市部で広報されたので評価はしている。 ●個人的には京都駅の地下に出ていると印象がよい。 ●大きなPRは民間やDMOではできない。しかし、効果測定は難しい。効果はあるのだと思うが。最後に書いてるように、調べた人がちゃんと行きたい情報に最終行きつけるかというところは別の事業と連携をしてやっていく必要があると思う。 ●効果、というどちらとも言えないが、広報手段としての住み分けが必要だと思う。 ●2-4とは性質が違う。茨木を移住者のターゲットとして戦略的に根拠を持って決めていないと思う。感覚的なものか、業者の都合では。作られたもの自体はきっと素晴らしいものだったと思うが、流す場所がここでよかったかという点に再考の余地があると思う。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	2	2-6 商工振興助成事業（商工会 イベント補助） （商工課）	① 2名 ② 3名 ③ 3名 ④ 1名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント企画による市民の誇り醸成には有効であると考え。観光入込客数や認知拡大にも十分寄与していると考えられるが、獲得したい“観光客”の定義や観光ビジョンが必要だと考える。 ●大型イベント実施は中止のリスクや地域の疲弊といった負の効果もあることも考慮し、イベントを実施するにしても中止リスクの少ない形式を模索する必要があると思う。 ●市民の誇りや一体感という意味では、規模を小さくして行ったことで、市民からの評価は例年よりもむしろ好評で効果があった。市民が良いものは定住促進にもなるので効果があったといえる。 ●コロナ禍で開催が難しいものもあるが、南丹市のPRとなるので、継続的に実施してほしい。 ●地域と協力・連携した事業の実施は、地域活性化に不可欠であり継続的な取組みに期待する。 ●市民の地域への誇りや一体感は高まっていると思う。しかし、地域の活性化に繋がっているかと思う。 ●コロナ禍、或いは荒天により、中止となったが、商工事業者が主体となった取組として、地域住民にターゲットを当て、シティプライドの醸成につながるイベントとしての進化が期待される。R4年度は、規模を縮小したが、地域住民には大変好評であったことも踏まえ、今後も、適正規模での実施に努め、市外から多数の来訪を成果とするよりも、地域住民の満足度に着目していく必要があると思われる。 ●観光イベントの中止は残念であったが南丹市をアピールできる今後の事業実施に期待する。 ●コロナ禍はまだまだ続く。中止の場合を見込んで、どのようにすれば「南丹ファン」を増やす効果的なことができるのか、商工会に助言があるとよい。 ●中止リスクを指摘されているし、実際に繰り返されている。 ●開催目的が市内向けか市外向けなのかかわからなくて評価が分かれているのでは。南丹ファンを増やすという目的には合わないのでは。地元の誇り醸成なら評価できる。どちらが目的か。対象は。 ●交付金をもらえたらよい、ということではない。外部が喜ぶ大規模イベントは中止のリスクがあることを踏まえるべき。 ●出身者が戻って来た時に地域の良さを感じるようにするか、あるいは外部に対してやるならしっかり人が呼べるイベントにするか、ということ意識して欲しい。
2	2	2-7 観光宣伝事業（その他宣伝 事業） （観光交流室）	① 5名 ② 2名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●想定した取組が海外向け観光プロモーション事業であるならば動画やポスター等多言語対応が必要と考える。動画再生数から推測するに、基本目標2に十分寄与しているとは言い難い。 ●新しいサイトでまだアクセスが少ないということだったが、京都府や森の京都、京都移住計画などの移住担当の方の話を聞いていると、既存ページとの棲み分けや入れ替えが十分ではないように感じるので、見直しはどうか。入れ込み客数と繋がるように、旅行や宿泊を予約できるページと繋げたりなどはできないか。 ●インバウンド再開により今後期待できる取組であると思う。 ●関係団体とも連携し、観光のPRに対し幅広く事業を実施することができた点を評価する。 ●ポスター制作、道の駅案内など大切である。この2年余り、コロナ禍の中、大変だったと思う。今後に期待したい。 ●「暮らし」に着目した南丹市における観光のあり方、魅力に焦点を当てたwebコンテンツを制作されており、有効と判断する。 ●Web閲覧数が伸びておらず、森の京都DMO等と連携し、デジタルマーケティングの取組を推進していかれたい。 ●南丹市フォトコンテストは、応募数も多く、「南丹ファン」の獲得に繋がっていると思われる。地元の人たちの、ふるさと再発見にも繋がる。応募者は同じ方が多いのか、どの地域からが多いのか知りたい。 ●「御城印巡り」については、どこで販売しているのかもっとPRする必要がある。（どこで手に入るのか尋ねられることがある。販売所が閉まっていることがある） ●色んな方法で宣伝しているが、実際どれが効いているのか、観光協会とか市役所がアンケート等で効果を捉えて欲しい。全国誘客をし合っている中で、効果的なPR方法を見出して欲しい。 ●地域、学生との大学との協働も含めて、色々な方法で調べ、効果があると分かれば交付金をもらうに値する事業としてPRできる。効果測定方法での先進事例を目指していただけたらと思う。 ●御城印は貴重なものだと思うが、どこでやっているのか分からない。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	2	2-8 観光宣伝事業（美山DMO補助） （観光交流室）	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●予算をかけている分、美山町だけではなくて、南丹市全体として、美山が他地域を引っ張っていきけるよう、工夫が必要に思う。 ●補助金交付により、コロナ禍で落ち込んだ観光客を取り戻すための様々なイベントが開催されるようになり、有効であると思う。 ●美山DMOの様々な取組みが観光振興に大いに繋がっている。コロナ収束後を見据えての観光振興の取組の必要性も高い。 ●南丹市の魅力創出においても、エコツーリズム推進事業に美山DMOは大切な事業である。 ●ベストツーリズムビレッジに選定されるなど、美山の観光まちづくりの要として、地域の合意形成、国内外への情報発信を戦略的に進めており、有効と判断する。 ●美山DMOの活動は活発であり、今後のウィズコロナの中でも、観光拠点としての美山の展開に期待する。その活動に南丹市はどのようにからんでおられるか知りたい。 ●観光の戦略を市と一緒に作る話が進んでいる。どういうお客様を狙い、どうプロモーションするか、効果測定しながら進めていかねばならない。 ●何を見て美山に来ているのかというのは、年に3回調査している。一番見るのは美山ナビで、紙媒体はほぼ見られないため、紙媒体は縮小している。
2	2	2-9 観光協会事業 （観光交流室）	① 5名 ② 3名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●美山町も含め一体型の観光PRを期待する。 ●補助金交付により、コロナ禍で落ち込んだ観光客を取り戻すための様々なイベントが開催されるようになり、有効であると思う。 ●各地域における積極的かつ多様な取組は評価できる。南丹市観光協会連絡会の設立による観光振興事業の一体化に期待する。 ●観光地として、南丹市のレベルアップと知名度の向上を図るためにも、一体化する大切な事業である。 ●新たに園部文化観光協会が発足し、市内各地域の魅力を活かした観光振興を進める体制づくりに寄与しており、有効と判断する。 ●旧町ごとのまちづくりと連動した特色ある観光コンテンツ開発と受入体制整備を進めるとともに、マーケティング、ブランディング、プロモーションについては、森の京都DMOと連携して、地域の人々との交流・関係性を基盤としたコミュニティ・ベースド・ツーリズムと、地域間連携との相乗効果を取りながら、深化されたい。 ●それぞれの観光協会の連携はどのようになっているか。観光客の問い合わせなど、具体的にどのような反応があるのか知りたい。 ●観光協会ごとに自分たちのテーマを持っているのは感じているが、観光客の受入体制や観光情報の提供体制が整っているのかどうか分からない部分がある。協会窓口が閉まっていて何も聞けなかったという場面に遭遇したことがあった。観光協会に人がいないという風評はイメージダウンになってしまう。 ●将来的に、より一体性を持って活動できるのか、メリハリをつけられるのか、という課題はある。
2	2	2-10 観光文化資源活用推進事業 （観光交流室）	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●事業を通して蓄積された観光資源情報が各観光協会やDMO事業で活用されている様子が伺えず、基本目標2のKPIに寄与する部分が限定的であると思う。歴史文化のデジタルアーカイブは重要なことであると考えてるので、事業名にあるように今後"活用推進"がなされることを期待する。 ●アーカイブした資料を市民が地域活動のチラシなど作る際に利用できるようにしたり、学校教育で使えるように整備したら、より目標に有効な政策になるのではないか。 ●デジタル化により世界中に発信が可能となるので、今後様々なコンテンツを使用しPRをしてほしい。 ●期間が限定された事業であり、引き続き内容を精査したうえで事業支援を検討し、対外的なアピールに繋がっていただきたい。 ●歴史文化振興による、市内の文化遺産等の情報の見える化の取り組みは大切である。今後の事業に期待したい。 ●文化庁の5カ年事業を活用して、中長期的な視座から取組を進められており、有効と判断する。 ●文化庁の京都移転の好機を活かし、当初の計画にあったように、地域学芸員養成等の人材育成・活用、文化遺産の継承・魅力発信、事業継続への仕掛け、基盤整備を進められたい。 ●映像制作などで広くたくさんの方にPR出来たと思う。今後の展開として、それら映像素材をどのように誘客に繋げていくのか知りたい。 ●実際の活用に至っていない途上だが、やっていること自体は観光客が色んなところでサイクリングをしながら伝統文化を知ることができるので、続いていくべきことと思う。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	2	2-11 展示会事業 (社会教育課)	① 5名 ② 3名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●市外からも入場者があるということで、効果があるといえる。図録が非常に安く、市民としてはありがたいがもう少し値段を上げた上で市民割りなどしても良いのではないかと。 ●関西の展覧会をまとめて調べられるサイトなどにあまり掲載されていないので、掲載依頼をしてはどうか。 ●展示会の周知活動、周知方法が大事かと思う。今後、WEB、SNSをさらに活用した周知活動を継続してほしい。 ●文化博物館、郷土資料館における定期的な展示会の実施は、南丹市の歴史文化や魅力を伝える重要な手段である。集客力の強化に向けた工夫・取組みが必要と考える。 ●展示会により、歴史や民俗文化を発信することは、大切である。 ●文化博物館、郷土資料館の人材・機能を活かして、企画展示を行っており、有効と判断する。 ●それぞれの展示を通じて、どのようなターゲットに、何を遡及し、どのような効果を期待したいのかを設定し、その検証を重ねられたい。併せて、各観光協会・DMOとも連携して、「学びのツーリズム」として企画・実施を検討されたい。 ●これらの展示会を継続して行うことは、大変重要なことである。「南丹ファンを増やす」という基本目標であるが、展示会が誰に向けてのテーマか、南丹市外にはどのようにPRされているのか、市外からはどれくらいの来館があるのか知りたい。
		2-12 歴史遺産振興事業 (社会教育課)	① 6名 ② 3名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●位置づけが基本目標2となっているが、内容としては基本目標4に付随するものであると思う。継続することで転入者数や基本目標4の達成に繋がると思う。 ●市外からも入場者があるということで、効果があると言える。関西の展覧会をまとめて調べられるサイトなどにあまり掲載されていないので、掲載依頼をしてはどうか。 ●イベントの市外からの来場者を増やす広報が必要である。 ●芦生研究林を取り上げた歴史文化振興により南丹市の魅力を市内外に発信することができた点を評価する。 ●魅力を発信するには、大変よい事業である。 ●芦生研究林100年の節目を活かした時機を得た取組であり、有効と判断する。 ●観光庁「令和4年度 将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」の採択を受け、近代化産業遺産に認定されている芦生の旧トロコ軌道跡地を活用した新しいエコ・環境ツーリズム創出をテーマに調査事業が予定されており、当事業の成果を活かすなど、連携されたい。 ●京大研究林と画家とのコラボ、ギャラリートークなど、企画の内容が大変面白く、市内外から多くの来場者があったように思う。
		2-13 山村留学事業 (社会教育課)	① 8名 ② 1名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●関係人口創出の施策としては先駆的な取り組みであり、卒業生には移住者も数名いるため、基本目標2の達成に必要な事業であったと思う。メディアにも取り上げられたことで南丹市の認知拡大にも貢献した事業であったと考える。 ●本来の目的は終えたということだが、社会のニーズは高まっている。費用は参加者が払う形にして、市内の保育園や小学校と連携し、ワーケーション需要を取り込めないか。(参考→保育園留学に都心から応募者殺到 https://xtrend.nikkei.com/atcl/contents/18/00616/00003/) ●様々な地域から入所があり、関係人口創出につながったのではないかと。 ●幅広い地域から数多くの児童を受け入れ、新たな関係人口の創出に繋がり、地元行事への積極的な参加等による交流もできたことから効果的な事業であった。本事業は終了となるが、この成果を活用できるような新たな取組に期待したい。 ●長い間の事業であった。これからも都市と山村の交流のできる事業を期待したい。 ●留学事業継続に、地域や運営委員会とも協議の結果解決策が見いだせなかった、との事残念である。今後このような取組は、都市部の市民グループと提携して事業の展開ができないものか。 ●25年間の永きにわたり、地域と連携して取り組まれてきており、有効と判断する。目的の再整理、受入体制を再構築しつつ、新たな手法を取り入れ、これまでの成果を活かして行かれないか。 ●山村留学事業には大きな魅力を感じる受け入れ家庭などに負担を強いることと思うが、事業が終了予定となっていることは残念である。 ●地元の熱意と協力のもと、25年間継続されたことは尊敬に値する。山村留学制度は、特色のある「南丹ファン」獲得にむけた事業と感じる。25年目が終了したのちも、これまでの経験を活かした取組が続くと期待する。 ●長年に渡って取り組んでいただいた。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	2	2-14	① 7名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の愛郷心の向上が目的とするならば、効果が限定的であったように思う。市の観光戦略として歴史ファンの獲得が上がっているのであれば一定有効であったと考える。 ●市民参加ができたのが好評価だった。出演した児童が親戚を呼ぶなど良い影響があった。 ●大河ドラマとタイミングを合わせたPRは有効であると思う。イベントがコロナ禍での開催で、動員が本来の数ではなかったが、今後も歴史ファンは注目するのではないか。 ●内藤ジョアンにスポットをあてた新たなPR方法でイベントを開催するとともに、八木城を含む市内に多数ある城跡等の歴史遺産を有効活用する取組にも繋げていることを評価する。 ●地域の歴史遺産の有効活動であり、住民の愛郷心に繋がり、これからも続けてもらいたい事業である。 ●八木西小学生がキャストとして出演し、子どもたちが地域の歴史を学び、誇りに思える機会となり、有効と判断する。 ●今後、この取組をレガシーとして継承しつつ、より幅広く、子どもたちをはじめ、地域の方々八木城跡を活用した取組が発展するよう、連携・体制づくりを進められたい。 ●歴史遺産を市民に広く紹介する方法としてオペラの上演を企画されたことは、非常に良かったと思う。地域の小学生や音楽に携わる人たちが参加されたことも意義深い。単発で終わることなく、発展的に継続されることを期待する。
		生涯学習推進事業 (社会教育課)	② 1名 ③ 0名 ④ 1名 ⑤ 0名		
4	1	4-1	① 6名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●同様の課題を抱える集落に支援員が入り、情報共有されることで、安心安全な地域づくりに繋がると思う。 ●集落支援員が入った地域はその後続く活力が生まれていると思う。 ●現在、集落の機能維持が本当に厳しくなってきた。補助があることで、地域の取組が一つでも多く維持できるのであれば有効である。 ●限界集落、準限界集落での地域活動活性化について多くの地域の再生事業への支援実績が評価できる。 ●少子高齢化が進み、地域が抱える課題の解決に向けて必要である。 ●集落支援員と地域団体が連携して、計画的・継続的に取り組まれており、有効と判断する。 ●集落支援員の活動は大変効果的である。地域がさらに活性化するように、今後も継続して活動されることを期待する。
		集落活性化支援事業 (地域振興課)	② 3名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名		
4	1	4-2	① 7名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●土日も予約制で運用できないか。日頃の買い出しや通院だけでなく、観光や里帰りの足にもなる。 ●一定の利用者数がある。 ●公共交通の空白地を埋め、市民の交通手段確保の取組として評価する。 ●高齢者にとっては、公共交通の充実をはかることは不可欠である。 ●路線バスを補完し、地域における生活交通を維持する事業として有効と判断する。タクシー事業者等とも連携・調整しながら、地域が主体となった運行事業についても、検討を進められたい。 ●持続可能な地域公共交通網の整備に期待を寄せる。バス利用促進運動を強化する取り組みが必要と考える。 ●利用人数が少ない地域は、利用しにくいのかニーズがないのか、分析が必要だと思う。生活路線バス等運行事業は、もっとテコ入れを行うべき。
		生活路線バス等運行事業 (地域振興課)	② 1名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名		
4	1	4-3	① 4名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●単年度では効果測定が難しい事業と考えるが、事業費に対して成果が限定的であると思うので、今後の事業展開に期待する。 ●市民活動でも健幸ポイントが貯まるような仕組みを、市民活動交付金や交響プロジェクトの要支援者を申請した団体なども使えるようにしたら、より効果的ではないか。 ●健康志向が高まっている中で、今後有効な事業であると思う。 ●短期的には結果が見えにくい事業といえるが、ICT活用により有効な事業展開が期待できる。今後の事業参加者数増加による事業拡大に期待したい。 ●飽食時代の今日、市民みんなが、食に関して関心を持つべきである。健康につながる大切な事業である。 ●企業、他地域とも連携し、ICTを活用して、コロナ禍でも、日常的な健康づくりを定着させることができる事業として実施されており、有効と判断する。 ●初年度ということもあり、まだまだ参加者が少なく、一層の周知を図るとともに、企業版ふるさと納税活用の具体化、学校給食、飲食店への遊及など、企業、地域と連携した健康づくりを進化されたい。 ●府のスポーツ&ウェルネス構想、南丹保健所、京丹波町、亀岡市等の取組とも情報共有を行い、府及び管内市町との連携も視野に入れられたい。 ●健幸ポイント事業は、もう少し幅広く参加できる環境があるほうがよい。 ●健幸・食育レシピコンテストは、小・中学生の参加で、実りある取組であった。今後も継続するとよい。 ●事業費に対して成果が限定的。お金が流出したイメージなので①ではない。 ●誰もが利用しやすい事業であるべき。
		健康づくり推進事業 (保健医療課)	② 4名 ③ 0名 ④ 1名 ⑤ 0名		

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
4	1	4-4 南丹市版地域包括ケアシステム推進事業 (地域医療室)	① 6名 ② 1名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●4-3の事業とも連動して行っていけないか。 ●ICT導入によるケア体制構築に向けた前向きな取組が行われた。 ●健康づくりの推進、安心・安全に暮らせるまちづくりに寄与するものとして、ICT導入による効率的ケア体制の構築に向け、関係機関等との連携や地域との関わりを実施した取組みは評価できる。 ●全世代に繋がるよい事業ではある。参加者がどうであったか。 ●ICT導入による効率的ケア体制を構築し、住み慣れた地域での在宅医療維持に寄与する事業であり、有効と判断する。 ●過疎高齢化が進む地域におけるモデルづくりを進め、志をもった医療福祉人材が誘致・定着できるよう、関係機関と連携した取組を深化されたい。 ●住み慣れた地域で、安心して暮らせる地域づくりのため、さらに発展させて継続すべき事業であると思う。
4	2	4-5 中心市街地活性化事業 (商工課)	① 4名 ② 4名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●持続性が意識されており、民間の活力も活かした事業であり、住み続けたいまちづくり実現のために有効であると思う。 ●商店街組織が維持できなくなっているのがそもそもの問題ではないか。いくつもある商店街をまとめて効率化するなどの、話し合いを設けたり、組織変更につながる手続き費用に使える形にしてはどうか。 ●平成31年度以降は、KGIが上がっている。ただ、目標値とは差があるので更なる取組が必要である。 ●まちなかの商店や団体へのサポートは必要であるが、それにとまらず中心市街地の空き店舗の活用、起業促進、雇用促進に繋がるよう取組継続を期待する。 ●空き店舗の増える中、大切な事業である。 ●にぎわい創出のためのチャレンジショップの開設、起業促進、団体へのサポートをトータルに実施しており、有効と判断する。 ●実際にまちなかでの賑わいがどのように変化しているのか、見えにくい。必要な事業とは思いますが、とりあえず毎年同じような事業を…となっていないか。費用対効果はどうか。
4	2	4-6 小学校跡施設活用推進事業 (総務課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●改修費や解体費など、たまた方を意識した計画づくりのため、実際の経費を見ながらリアルに見ていくことが必要ではないか。金融機関や専門家などにも入ってもらえるような仕組みにしては。 ●元小学校ということで設備が整っている。夏祭りなど様々なイベントが実施されており、地域の幅広い年齢層の方々の交流の場となっている。今後のまちづくりに必要な事業であると思う。 ●小学校跡地活用は簡単に解決できるものではないが、民間事業者と地域の連携により成功しているケースも見られる。効果を検証し、より有効な事業実施に向けて取り組まれることを期待する。 ●小学校区を中心とした地域コミュニティ活動も大切であるが、民間移譲や民間活力導入の検討が望まれる。 ●地域コミュニティ活動が、小学校跡地施設を拠点に展開されており、有効と判断する。 ●事業としては大切である。しかしながら、南丹市として、地域として小学校跡地をどのように活用するのかの方向性がわかりにくい。推進事業として支援し、新たな展開を見せる地域もあると思うが、今後の建物の維持・管理の方向性が定まらないのは不安。 ●実際令和7年度からどうなるのか曖昧な説明であった。市が直接管理している4校は用途が決まっていない、7校も市がお金を出しているからどうにかなっているがその後が心配。
4	2	4-7 市民協働推進事業 (地域振興課)	① 3名 ② 4名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●学生単独で申請するにはハードルが高いように思う。市民団体が学生枠を使って申請できるようにしては。 ●学生のチャレンジ枠が0件だったので、周知方法を見直す必要があるのではないか。 ●地域課題解決のための市民活動に対する交付金として意義あるものとする。団体が活動を継続して取り組むことができるよう対応願いたい。 ●活動交付金が3年間という期限であり、継続して取り組むことが無理なようである。 ●市民自らが地域課題の解決を目指す事業を支援するものであり、有効と判断する。 ●市民団体が活動を進める中、どのようなアドバイスや支援をデザインセンターが行っておられるのか、どのような事業が行われたのか。 ●学生チャレンジ枠はどのように広報されているのか。 ●コロナで学生が地域に出ないというのはもう理由にならず、実際はどんどん飛び出して行っている。 ●大学の事務局にとっては少額の事業なので、大学に足を運び事務局にも教員にも学生にも南丹市の思いを直接伝えないと、なかなか掘り起こせない、ということを強く言いたい。 ●地域の課題が色々あると思うので、いきなり学生に投げるのではなく、逆にそういう提案を色々地域から拾って、学生と一緒にやりたいテーマがないか提案をされていたらどうか。 ●結局、コロナ禍で利用者が1、2人しかないものが有効なのかという疑問を持っている。 ●よい取組とは思っていたが、枠が小さすぎて手が出ない。実績の事務作業も負担。 ●高校生の方にやってもらう方がよいのでは。 ●大学側で一生懸命学生に声をかけて手を挙げさせたのに、書類のチェックが厳しくて、形式面を重視し過ぎている気はしている。そこに改善の必要がある。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
4	2	4-8 なんたん中間支援センター運営事業 (地域振興課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●ふんわりしたところから相談できるところがありありがたい。 ●来館者、相談件数等を見ると需要があると判断できる。地域で何かをやるとなった際に、どこに相談してよいかかわからない事もあるので、気軽に相談できる場所が必要である。 ●多様化する地域課題の身近な相談窓口として、南丹市まちづくりデザインセンターの役割は大きく、来館者数、相談件数等の実績を評価する。 ●まちづくりには「南丹市まちづくりデザインセンター」は、アドバイスの拠点となり必要である。 ●市民協働のまちづくりを推進するため、運営資金に関するアドバイス、情報の受発信や団体間の連携のコーディネートなど、団体に応じたアドバイスを行うものであり、有効と判断する。 ●実際に来館（相談）され、運営につながった件数はどれくらいあるのか。デザインセンターにはどのような相談が寄せられるのかが知りたい。 ●今日ヒアリングもしてご説明いただいた上で色々不安もあるが、「大丈夫です」と言われたらそれ以上どうしようもない。 ●センターは府庁にもあり、南丹局エリアにもり、市もあって、アクセスしやすいところを利用してもらえたらよい。相談員もそれぞれ強みがある。オールマイティーではなくて、それぞれの相談員の強みを活かしてやっていくので、相談員のマッチングをしてもらったらよいのかなと思う。 ●少し物足りないのが、やはりマッチングができれば、もっと地域密着型の活動を支援するようなアクションが大事かなと思う。センターの方もテーマ型と地縁型に分けて、特に田舎だったら後者が大事と思っているので、期待したい。長くやってはこられているが、そのあたりの実態は十分には把握しきれていない。
4	2	4-9 大学等連携推進事業 (地域振興課)	① 6名 ② 3名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●学生のうちに南丹市と関わっておくとその後の定住率が高まり有効に思う。 ●高齢化が進む中で、学生が地域に入り活動することは今後重要になってくると思う。 ●南丹市にも多くの学生が下宿しているので、事業に興味を持つ学生は一定数いると思う。ただ、いきなり地域の中には入っていきづらいので、様々なイベントを学生に告知し少しずつ地域の方との交流を深めていくのが良いと思う。 ●大学と地域、学生と地域の連携を行う本事業は、地域課題の解決と市民活動の活性化に繋がるという点で意義は大きい。 ●地域と学生を繋ぐことによって意義があるまちづくり活動に大切である。 ●大学・学生が地域活動に参加していくための契機となるとともに、学校提案型のまちづくり活動が展開されており、有効と判断する。 ●コロナ禍のため、十分に展開できなかったと思われる。 ●京都建築大学校、伝統工芸大学校などの高等教育機関とも連携して、より専門性を活かした取組も検討するとともに、「第二のふるさと」としての関係性が深まるよう、仕掛けづくり、働きかけを行いたい。 ●地域の大学や専門学校に通う学生たちが、地域住民と関わることが少ない中で、大学等の特徴を活かしたこの取組はとても有効であると思う。今後も学生が南丹市を「第二のふるさと」と思えるよう、継続して進めていくべき事業と考える。 ●コロナで学生が地域に出ないというのはもう理由にならず、実際はどんどん飛び出して行っている。 ●大学の事務局にとっては少額の事業なので、大学に足を運び事務局にも教員にも学生にも南丹市の思いを直接伝えないと、なかなか掘り起こせない、ということ強く言いたい。 ●地域の課題が色々あると思うので、いきなり学生に投げるのではなく、逆にそういう提案を色々地域から拾って、学生と一緒にやりたいテーマがないか提案をされていったらどうか。 ●大学側で一生懸命学生に声をかけて手を挙げさせたのに、書類のチェックが厳しくて、形式面を重視し過ぎていく気はしている。そこに改善の必要がある。
4	3	4-10 小学校跡施設管理費 (地域振興課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●改修費や解体費など、たまたみ方を意識した計画づくりのため、実際の経費を見ながらリアルに見ていくことが必要ではないか。金融機関や専門家などにも入ってもらえるような仕組みには。 ●元小学校ということで設備が整っている。夏祭りなど様々なイベントが実施されており、地域の幅広い年齢層の方々の交流の場となっている。今後のまちづくりにおいて必要な事業である。 ●地域振興会などの地元組織が施設管理・運営を行い、地域住民のために小学校跡施設を有効に活用していることから本事業は評価できる。こうした活用実績をもとに、より一層効果的な活用方法の検討や実施等に繋がっていただきたい。 ●住み慣れた地域の資源を活かし地域の交流を通し、郷土愛につながればよい事業である。 ●地元組織が施設の管理・運営を行い、地域の拠点としての事業・活動が実施されており、有効と判断する。 ●事業としては継続すべき案件と思う。しかしながら（4-6）と同じく、今後の利活用の方向性はどのようになっていくのか。（4-6）の対象施設との違いは何か。 ●今後について地域の住民の方だけでなく市が第三者的に入って話すとかが、専門家の方が入って話すとかが、そういった機会を検討してはどうか。 ●令和6年度というタイムリミットが迫ってきている中で何かやろうとしたら、もっとお金がないと難しいとか、施設ごと、地域ごとに事情が違うように思う。 ●現時点では有効と思うが、やり方を考えないといけないと思う。 ●あまり先延ばしにしようがない問題と思う。 ●高齢化・少子化が進む中、郷土愛をテーマにしても集客力がない。コロナの影響もあるが、実際に行った人の評価が高くないので、その声が広まったら余計に足が遠のく。運営は頑張っているが。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
4	3	4-11 アーティスト・イン・レジデンス事業 (地域振興課)	① 3名 ② 4名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍でも遠方から来訪があり（単独旅行者が多かったため感染の不安も少なかった）、地域住民の意識、特に空き家への意識が改善したように思う。空き家バンクへの登録や活用にもう少しつながると良い。 ●アーティストが地域の資源に住民とは違う目線から光を当てるため、住民にとっても自分たちの町を新鮮に見られるきっかけになった。 ●成果として数字に反映されるのが難しいと思うが、市民がアートに触れる機会をつくることで若い世代にも魅力を伝えられたのではないかな。 ●府市連携によるイベント実施は良いことであるが、持続的に地域の活性化に繋がるものであるか、その効果の検証等に努め今後の事業に生かしていただきたい。 ●人口減少に対応し、市民満足度を向上させ地域が持つ魅力をアートを通じ発信することは交流人口の増加に繋がる。 ●京都府と連携して、アーティストが地域に滞在し、地域の魅力を発信するものであり、有効と判断する。 ●来場者も参加者も多く、事業として有効と思う。どのように広報されたのか、参加者はどこから来られた方が多いのか知りたい。 ●なかなか数字として表れるのは難しい取組と思う。市民の方が来る機会が増えている部分、特に若い人を中心にアートで魅力を発信する意義はある。
		4-12 国定公園推進事業 (環境課)	① 7名 ② 1名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●国定公園の費用ではあるが、国定公園を切り口にした南丹市全体の観光に寄与することを期待する。 ●来館者、セミナー利用者の数をみても必要であり、有効な事業であると思う。 ●ビジターセンターの来場者数や開催されるイベント等の活用状況は当センターの運営が地域貢献に大きく寄与していることを表している。魅力ある事業の展開により、さらなる利用者の増加に繋がることを期待する。 ●近隣自治体や府と連携し、多様化する住民ニーズや広域化する行政課題に対応できる魅力ある事業である。 ●京都府、南丹市、美山DMOの三者で連携し、京都丹波国定公園ビジターセンターの運営及び維持管理を行うものであり、有効と判断する。 ●事業内容が明確で、取組も安定して行われている。今後も「国定公園」を活かした様々な取組に期待する。
		4-13 森の京都推進事業 (観光交流室)	① 6名 ② 1名 ③ 1名 ④ 1名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ●南丹市単独ではできないようなリサーチやPRがどのように活用されているか、市民に還元されているか、もっと見ていくべきでは。市内事業者もそのリサーチを活かせたり、観光客が訪れる場所と繋がったり、もっとできると良い。 ●個人的に感覚であるが、府、近隣自治体との連携によりブランド化が確立されてきているのではないかな。『森の京都』を目にする機会が増えたと思う。 ●市単独規模では成し得ない成果が期待できる京都府や府内自治体との連携による取組みは効果的な事業展開に繋がるものであり評価できる。 ●市単独規模ではなし得ないものが多い大切な事業である。 ●京都府、関係市町と連携して、マーケティング、効果的なプロモーション等を実施するものであり、有効と判断する。 ●令和4年度からは、南丹市職員を派遣して、市及び各団体等の取組との連携を促進しており、あゆなどの食を活かした展開や、地域の魅力発信、受入体制整備、地域間連携、国・府事業の活用など、具体的な成果が見える化できるよう、期待したい。 ●市全体、他市とをつなぐ、観光拠点事業であり、今後も継続すべきと思うが、具体的にどのような効果が上がっているのか知りたい。 ●「旅インフルエンサー」というライターが旅目線あるいは訪れる人の目線から記事を書き、どんな物語がここであるのかということを感じていただくようなデジタルコンテンツを発信している。 ●コロナ禍で逆に近場の人々が非常に多く来られアンケート調査の結果、京阪神エリアからリピーターが7、8割あるということがこの地域の特徴。 ●どんなことをこの人と出会って、こんなお店に行って、こんな楽しい価値がある、というコミュニティツーリズム的な展開が非常に重要な地域である。